

事故が起きてからでは遅い！ 同時期製造の歯車箱は直ちに使用停止せよ！

本部は4月9日、「N700系車両歯車箱破損事故に関する緊急申し入れ」について業務委員会を開催しました。

この事故は、JR西日本所属のN700系・N2編成の歯車箱の一部がJR西日本エリアで破損したため、途中で運転を打ち切り、鳥飼車両基地に収容したというものです。

歯車箱破損事故の原因については、「JR西日本が調査中」、歯車箱の製造会社、製造年月日については、「他社の事柄であり回答する立場にない」と誠意のない無責任な回答でした。

また、会社は、破損した歯車箱と同じ製造時期の歯車箱13台をサンプリングして解体調査していることを明らかにしました。しかしそれは、「製造時期を考慮して念のため異常がないか調査しているのであって、原因調査のためではない」と主張しました。

安全優先の姿勢にあらためよ！

JR東海でもN編成と同じ構造のZ編成を保有し、今後も増えていきます。この事故を「対岸の火事」と捉えるのではなく、積極的に原因究明を行うべきです。本部は、まずは同じ時期に製造された歯車箱はすべて取り替えるべきと主張しましたが、会社の姿勢は、「まだ原因がわかっていないので、その必要はない」というものでした。しかし、製造時期が同じならば同じような不具合が発生するのは誰が考えても解ることです。ましてや、時速270kmで走行する車両の「走り装置」です。ベアリングが車内に飛び込み旅客にケガを負わせたり、走行中脱線してからでは遅いのです。

「原因はJR西日本が調査中」
ならば、原因が分かり次第、明らかにすること！